

## ラテン・アメリカ政経学会 2025 年度会員総会議事要録

日時：2025 年 11 月 29 日 14:40～15:40

場所：青山学院大学相模原キャンパス E105 教室（オンライン併用）

開会にあたり定足数の確認を行った。会場出席者 34 人、オンライン出席者 7 人、委任状提出者 41 人であり、出席者と委任状の合計 82 人は、規約で規定される会員の 3 分の 1 (50 人) の定足数を満たしており、総会が成立することを確認した。

議長に高橋直志会員、書記に橋口義彦会員を選出した。

審議に先立ち、以下の事項が報告された。

1. 次期理事選挙の実施について、舛方選挙管理委員長から資料 1 に基づき報告された。  
今回の選挙では初めてオンライン投票システムを利用した。同システムには 5 名未満の投票を無効とする設定がなかったため、会員の意思表示を尊重するため 4 名以下の投票も有効とした。この点については、今後のオンライン投票の実施を鑑み、理事選挙実施要綱の改正が以下のとおり審議事項 5 で提案された。
2. 優秀研究賞、若手研究奨励賞の受賞者について、宇佐見選考委員長から報告された。  
受賞者は資料 2 のとおり。会員総会ののち、授賞式が開催された。
3. 『ラテン・アメリカ論集』第 59 号の発行について、資料 3 に基づき編集委員長の幡谷理事から報告された。今年度から、紙媒体を廃止し通年で投稿を受けつけるオンラインジャーナルへと移行した。2024 年度全国大会の創立 60 周年記念事業である報告論文、講演論文の 2 本が早期公開済みである。加えて投稿論文 2 本、書評 5 本、JSLA 賞授賞報告、学会消息を公開予定である。
4. 会計文書管理内規を理事会が策定したことについて、資料 4 に基づき浜口理事長から報告された。理事会任期が 2 年に短縮され会計関連文書の引継ぎが煩雑になること、外部から資金調達していない法人に関する法令に準拠し、文書保存期間を 5 年とすること、文書は原則として電子化して保存することが定められた。
5. 会員の入退会にともなう会員数の動向について浜口理事長から資料 5 に基づき報告された。
6. 2026 年度全国大会は、南山大学で開催されることが浜口理事長より報告された。

以下の事項について審議が行われた。

1. 2024 年度活動内容について浜口理事長から資料 6 に基づき説明があり、審議の結果原案通り承認された。
2. 2024 年度会計の決算結果について資料 7 に基づき村上理事から報告があり、森口舞監事より監査の結果問題がなかったことが報告された。2024 年度は会計年度変更の移行

期にあたり4～12月と短かったため会費収入が予算より少なかった。一方支出も予算より少なかった。理由としては、①全国大会開催費が開催校からの支援により少なく済んだこと、②会計締め時点で『論集』のJ-Stage掲載費用の支払いが1本分であったこと（残りは2025年1月以降に支払い）、③創立60周年事業費のうち海外招聘者旅費を上智大学と折半したこと、④同記念事業のうちウェブサイトリニューアルの支払いが2025年度になったこと、による。審議の結果、会計報告および監査報告が承認された。

3. 2026年度事業計画について、資料8に基づき浜口理事長から説明され、原案通り承認された。
4. 2026年度予算案について資料9に基づき浜口理事長から説明された。前期繰越金は、2025年度会計がまだ締まっていない（12月末日締め）ため、2024年度繰越金と2025年度の予算執行状況からの推計額である。全国大会開催費は30万円が計上された。開催校の会場費やアルバイト賃金の上昇を鑑みて開催校にお渡しする準備費金を15万円から20万円に引き上げたことに加え、全国大会に参加する学生会員への旅費補助や託児補助予算の10万円も加えて30万円となっている。論集編集・公開費は紙面作成とJ-Stage掲載作業を含み、2026年度は4本を想定して50万円を計上している。なお2025年度は12月末締めとなり、現会計担当の村上理事が理事会交代後もその会計締め、監査までを担当して引き継ぐことになっていると説明された。審議のうえ、2026年度予算案は原案どおり承認された。
5. 学会規約等の改正案2点について、資料10に基づき浜口理事長から説明がされた。ひとつは学会規約の雑則の学会所在地に関する記述のテクニカルな修正で、銀行口座開設のために必要な改正である。もうひとつは、報告事項1にあったとおり、理事選挙実施要綱第5条の「5名連記」を「最大5名までの連記」と改正するものである。いずれも原案どおり承認された。
6. 次期理事選出について、資料11に基づき坂口理事から説明があった。選挙により選出された6名の理事が推薦した4名の会員が、理事として承認された。また新理事会の役割分担についても資料のとおり報告された。
7. 次期監事として鈴木美香会員、大澤傑会員が選出された。
8. 坂口理事から、2025年度会費の年内振込みおよび事務連絡のデジタル化への協力について依頼があった。

会員総会終了後、2025年度ラテン・アメリカ政経学会優秀研究賞・若手研究奨励賞の授賞式が行われた。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2025年11月30日  
書記 橋口善彦（押印省略）  
理事（事務局） 坂口安紀（押印省略）